

平成 27 年度教職大学院派遣研修報告書

派遣者番号	27K15	氏名	藤垣 結髪
研究主題 —副主題—	特別支援教育コーディネーターによる校内研修に期待される効果 —教師の行動・意識の変容を目指して—		
所属校	練馬区立仲町小学校	派遣先	東京学芸大学教職大学院

項目	内容
I 研究の目的	<p>「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童・生徒に関する調査結果」文部科学省（2012）によれば、通常の学級において、特別支援教育が徐々に浸透しつつある状況が伺えるが、指導方法については、教員が十分に理解できていない可能性がある」と指摘されている。教員の理解を高めるためには、研修が必要である。</p> <p>研修は、教員の行動意識の変容を目指して行うことが望ましく、それを実現するためには、実態の把握と事前の意識付け、半年程度にわたる継続的なアプローチが必要であることが文献研究から分かる。</p> <p>筆者は、これらの問題を解決するためには、各校で任命されている特別支援教育コーディネーターが学校や教員の実態に応じて、校内研修を行えばよいのではないかと考えた。</p> <p>そこで、本研究では、特別支援教育コーディネーターが、より多くの学校で実現可能な計画で、実施することが可能な校内研修の在り方やアプローチの方法について研究していくこととする。校内研修の実施においては、教員全体の特別支援教育への意識・知識を向上し、行動・意識の変容につなげることをねらいとし、どのような研修方法や配慮がねらいを達成するにあたって有効なのかを検証する。そして、どの特別支援教育コーディネーターでもSV（スーパーバイザー）のサポートなしで校内研修を行えるようなプログラムとポイントを提案することを目的とする。</p>
II 研究の方法	<p>1 研究対象校</p> <p>対象は、筆者の所属校である都内公立小学校（A校とする）は、児童数 800 名弱、学級数は 23 学級の通常学級のみ学校である。教職員は 30 名で、そのうち若手教員（教員経験 1～5 年）が非常勤講師を含めると 30%近くを占める。筆者はA校において、昨年度まで特別支援教育コーディネーターを担当していた。今年度は研修のため分掌から外れているが、特別支援教育コーディネーターの立場として、研究を行っていくこととする。</p> <p>2 教員の意識調査</p> <p>3 校内研修の実施</p> <p>3-1 校内研修におけるポイント</p> <p>3-2 校内研修プログラム</p> <p>研修 1：児童の見取りに関する研修会</p>

	<p>研修2：ユニバーサルデザインに関する研修会</p> <p>研修3：保護者対応に関する研修会</p> <p>3-3 研修受講後アンケートの実施</p> <p>3-4 書籍コーナーの設置</p> <p>3-5 ミニ研修会</p> <p>3-6 ユニバーサルデザイン（以下UD）通信の発行</p>
<p>Ⅲ 研究の結果</p>	<p>1 研修での様子や、研修受講後アンケートより 研修会実施におけるポイントとしては、様々なポイントに留意して行ったが、「動機付け、意欲付け」「先生方の実践紹介」「情報提供」「一般的な事例を実際の児童とリンクさせる・汎用性を高める」「演習」「ロールプレイ」が特に有効であることが分かった。</p> <p>2 事前の意識調査と事後の意識調査の比較から 5月に実施した意識調査と11月に実施した意識調査の比較をした結果、全体として、通常学級において特別支援教育を推進することに難しさを感じなくなったり、発達障害の児童が学級にいる場合においても、学級経営に自信がもてるようになっていたり、保護者への協力を求めることに対し、苦手意識が減少したりした教員が30%近く増加した。また、学級の暗黙のルールを、可視化して分かりやすく示す必要性に気付いた教員は、全体としても20%近く増加したが、若手においては34%増加と、変化が特に著しかった。</p>
<p>Ⅳ 考察</p>	<p>このように約半年間にわたって、校内研修やミニ研修会の実施、UD通信の発行を行ってきたわけだが、アンケートからも意識調査からも、教員の特別支援教育への意識付けや理解の向上に効果があることが明らかになった。そこには、学校・教員・児童の実態を把握していること、教員との人間関係ができていて、短時間で数回にわたって研修会が実施できること、事前の準備や告知がしやすいこと、事後の様子を把握できること、相談に応じやすいこと等の、校内の職員ならではの強みが生かされたことは言うまでもない。この実践により、特別支援教育コーディネーターによる校内研修には、外部の講師にはない効果を期待できることが明らかになった。</p> <p>そして、校内の職員が講師として行う研修の効果として、もう一つ、講師側の成長があると感じた。人に教えることほど学べることはない。筆者自身、数回にわたる研修を行うにあたって、今までの学びを振り返り、様々なことを考えさせられた。また、研修会を行うことによって、話す力、プレゼンテーション力、論理的思考力、人の感情を読み取る能力、俯瞰して場を観る能力を鍛えることができる（真田、2015）。</p> <p>研修会は受講者である教員のため、という意味合いが強いが、結果的には、講師自身の成長につながる。今後多くの学校で、特別支援教育コーディネーターが、研修会の講師として活躍することを期待する。</p>